

第3回会議の位置づけ

■各種作業と工程

		基礎調査 / 計画書作成	市民参加	会議での検討
令和4年度	8月	・資料収集 統計データ等、みどりに関連するデータを収集・整理	・調査手法の検討・調整 既往調査の把握・整理と、調査対象や手法の検討	
	9月	・緑被調査 航空写真の判読による緑被分布の確認 ・公園緑地現況調査 法令等で定められているみどりの量や分布の確認	・調査票の検討 アンケート調査票案の検討	
	10月	・現行計画の検証 庁内担当部署による施策の実施状況の確認・評価作業	・WEBアンケート ・小中学生アンケート アンケートの調査票の作成	計画の諮問 第1回審議会 ● 審議会の役割・概要、みどりの基本計画についての認識の共有 ● アンケート案の検討
	11月	〃	・アンケートの回収集計	
	12月	〃		第2回審議会 ● 現況の共有、課題の整理 ● 改定に向けた視点について
	1月	・その他調査 計画の目標数値（KPI）に関する検討・データ作成等	・アンケート結果のとりまとめ	
	2月	・基礎調査のとりまとめ データや市民意向等をもとにしたみどりの課題整理と、基本計画の見直しの方針の作成		第3回審議会 ● 課題の整理 ● 見直しの方針の検討
	3月	〃		
令和5年度	4月	・計画の検討 目標、方針、施策などの検討		
	5月			第1回審議会 ● 目標、方針、施策の方向性の検討
	6月			
	7月			
	8月			第2回審議会 ● 施策の検討
	9月			
	10月			
	11月	・素案の作成		第3回審議会 ● パブリックコメント案の検討
	12月		・パブリックコメント	
	1月			
	2月			第4回審議会 ● 素案の検討
	3月	・計画策定		計画の答申

現行計画の目次

主に
第1回会議
の内容

主に
第2回・第3回
会議の内容

目 次	
序章. みどりの基本計画とは	2
序-1. みどりの基本計画とは	2
序-2. 西東京市における取組み	2
序-3. 西東京市におけるみどりの基本計画の位置づけ	2
序-4. 西東京すみどりの基本計画の目標年次	4
序-5. 西東京すみどりの基本計画の見直しについて	4
第1章. 都市のみどりをめぐる近年の動向	6
第2章. 西東京市のみどりに関わる現況と課題	10
2-1. みどりの体系	10
2-2. 西東京市のみどりに関する現況	11
2-3. みどりに関わる課題	18
第3章. みどりの将来像	22
3-1. みどりの将来像	22
3-2. みどりのまちづくりの目標	23
3-3. みどりの将来都市構造	24
3-4. 数値目標	27
第4章. みどりのまちづくりの方針	30
4-1. みどりのまちづくり方針の体系	31
4-2. みどりのまちづくりの基本的考え方	33
4-3. みどりの機能からみたまちづくり方針	34
4-4. みどりのまちづくりの施策の方向	40
第5章. 地域別のみどりのまちづくり方針	46
5-1. 地域区分	46
5-2. 地域別のみどりのまちづくり方針	48
第6章. 緑化重点地区と緑化重点スポット	70
第7章. 計画の実現に向けて	76
参考資料. 計画策定の経緯	80
用語解説	82

民間企業等との連携の取組

①指定管理者制度を活用した民間企業との連携

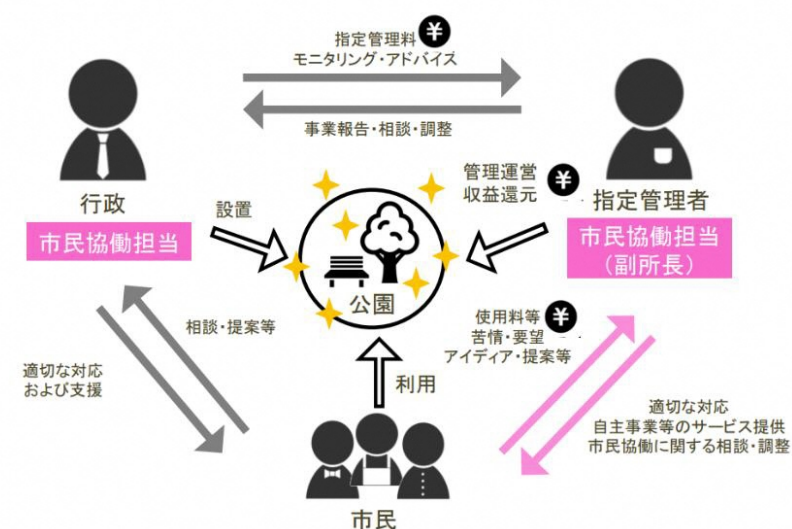
本市では、公園の管理について、指定管理者制度（施設管理を民間事業者や団体等に委任する制度）を導入。行政側と指定管理者側の双方に市民協働担当を配置することで、市民やボランティア等との協働による公園管理を積極的に推進している。

また、その仕組みの中で、本市が先進的に行っている取組として、一つの公園についてのみ指定管理者制度を活用するのではなく、複数公園について包括的に指定管理者制度を導入していることが挙げられる。こうすることで、市民活動等においてさまざまな意見やアイデア等が集まりやすく、地域とのつながりや人脈づくりが進むほか、管理の効率性や事業採算性などの向上も期待でき、エリアマネジメント活動が展開することで、地域の活性化に貢献しやすくしている。



NPO birth「西東京市における市民協働・公民連携による公園管理運営の取組み」

西東京いこいの森公園における 市民協働推進型 指定管理者制度



NPO birth「西東京市における市民協働・公民連携による公園管理運営の取組み」

②東大農場との連携

本市のほぼ中央に位置する東大生態調和農学機構（正式名称：東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構、通称：東大農場）は東京大学の教育・研究施設であり、耕地・林地・温室・見本園などが配置されている。30ha以上の敷地を有しており、本市の緑被としても大きな割合を占めています。ハス見本園や農場博物館など、一般への開放エリアもあり、市民に親しみのあるみどりとなっています。

2013年に東大生態調和農学機構社会連携協議会が立ち上がり、東大生態調和農学機構と西東京市・市民による社会連携協議会を通じて、教育・研究の発展と社会貢献を図り、市民・行政との協働事業の推進を図っている。

公開講座のチラシ



東大農場博物館

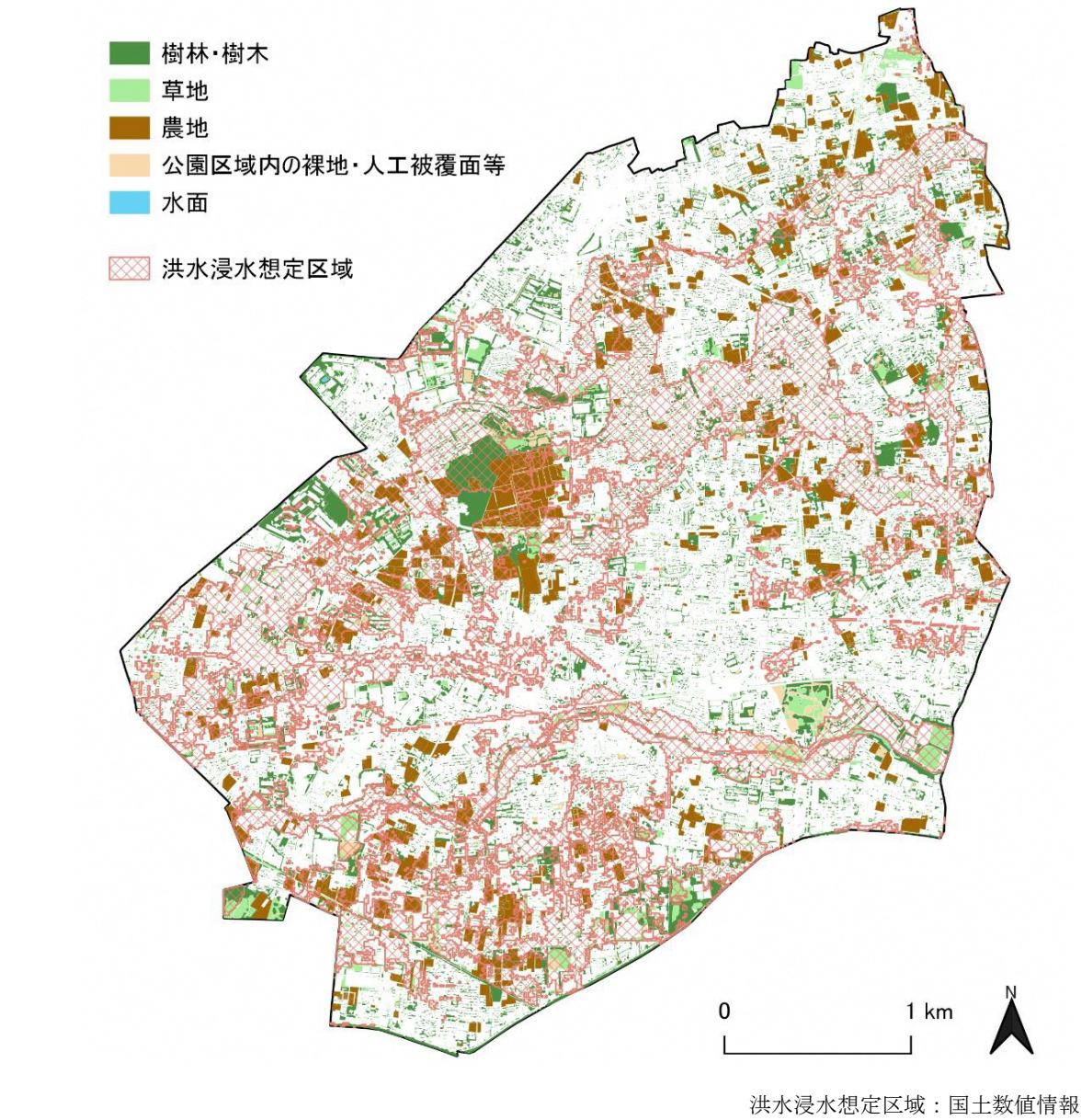
東大生態調和農学機構ホームページ

課題

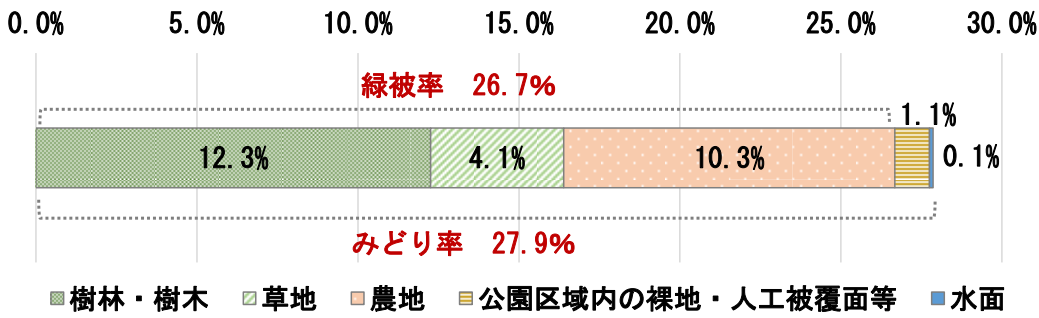
①洪水浸水想定区域

本市は市域の約3割が洪水浸水想定区域となっています。洪水浸水想定区域と緑被分布を重ね合わせると、区域における緑被率は26.7%、みどり率は27.9%となっている。

洪水浸水想定区域と緑被分布の重ね合わせ図



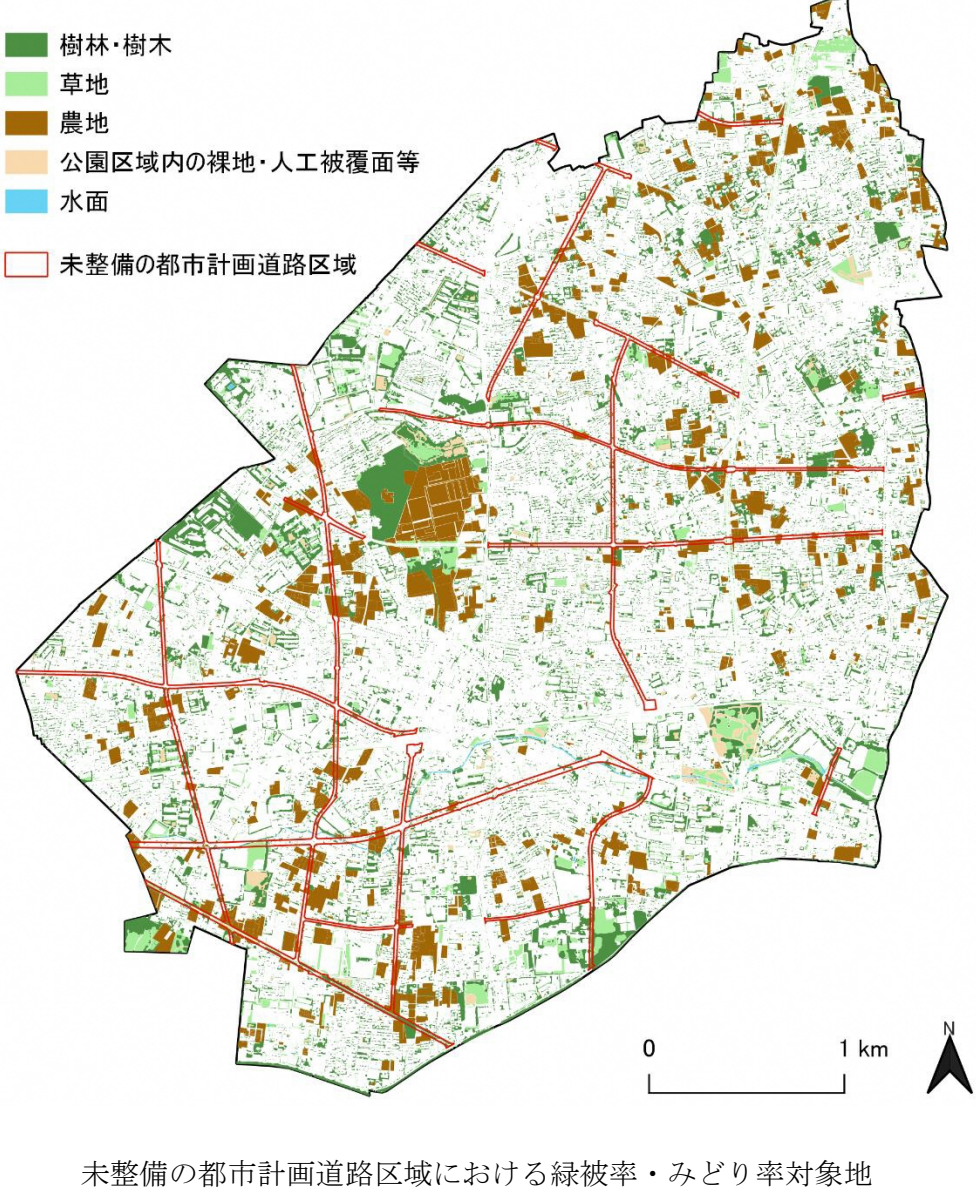
洪水浸水想定区域内における緑被率・みどり率



②未整備の都市計画道路

本市には都市計画決定がされたものの未整備の都市計画道路がある。未整備の都市計画道路が整備された場合、みどりに覆われた面積は約3%減少し、緑被率・みどり率自体は市域に対して約0.8%分の減少が予想される。

未整備の都市計画道路と緑被分布の重ね合わせ図



種別	面積 (㎡)	市域全体の量 に占める割合	対・市域面積の割合 ＝将来減少する緑被率・みどり率
樹林・樹木	63,303	3.1%	
草地	15,472	2.9%	
農地	44,839	3.3%	
緑被率対象地	123,613	3.1%	0.8%
公園区域内の裸地・人工被覆面等	2,759	1.8%	
水面	1,544	8.6%	
みどり率対象地	127,916	3.1%	0.8%

※各項目について四捨五入しているため合計値は必ずしも一致しない

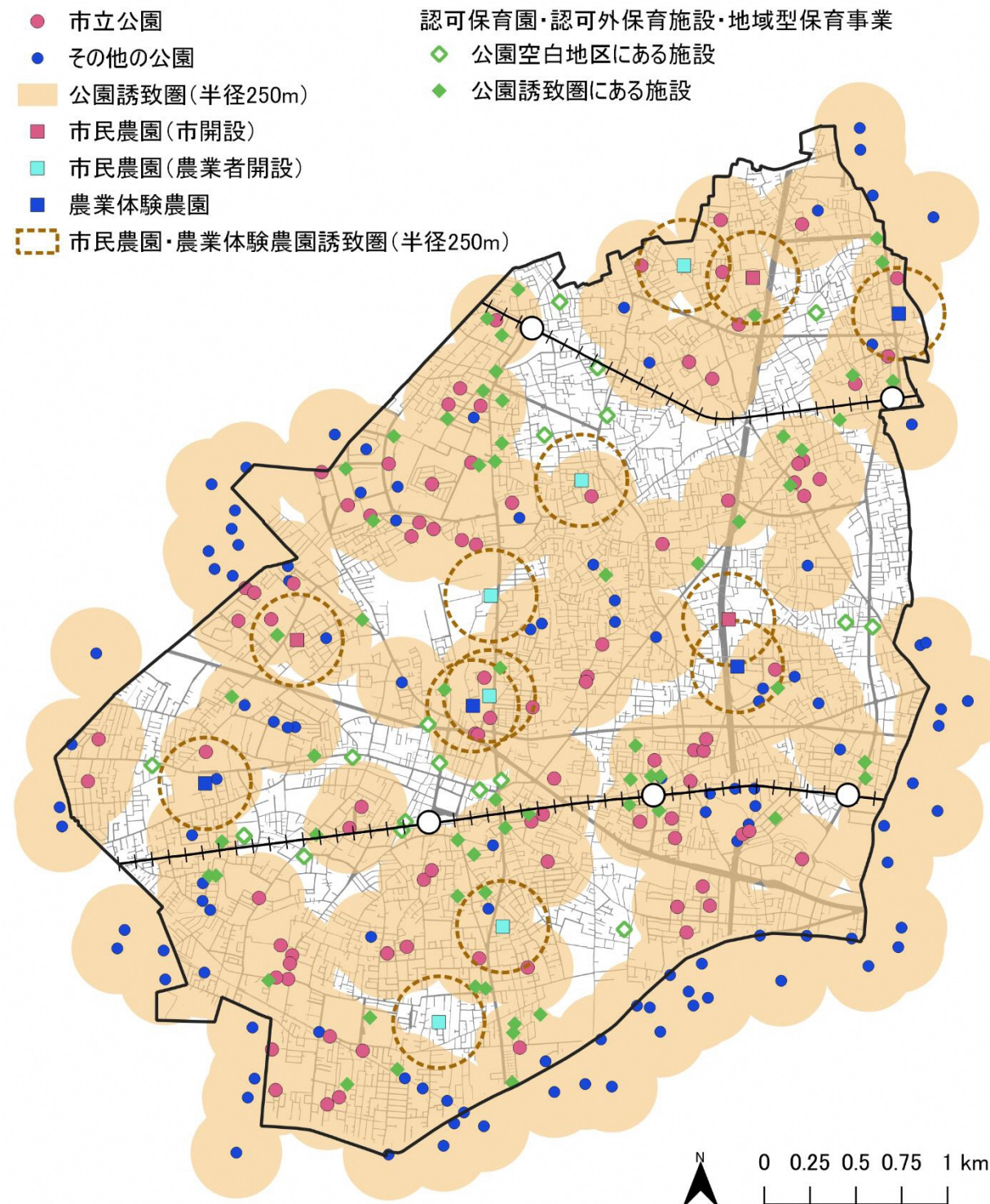
課題

③公園誘致圏と市民農園・農業体験農園及び保育園等

市内には市民農園が9か所（うち、市開設3か所、農業者開設6か所）、農業体験農園が4か所あり、こうした公園的機能を有する農空間の誘致圏は、公園空白地区の一部を補充する。

また、保育園等（認可保育園・認可外保育施設・地域型保育事業）は公園を日常的に活用すると考えられるが、市内にある81か所の保育園等のうち2割強にあたる約19か所が公園空白地区に位置している。

公園誘致圏と市民農園・農業体験農園及び保育園等

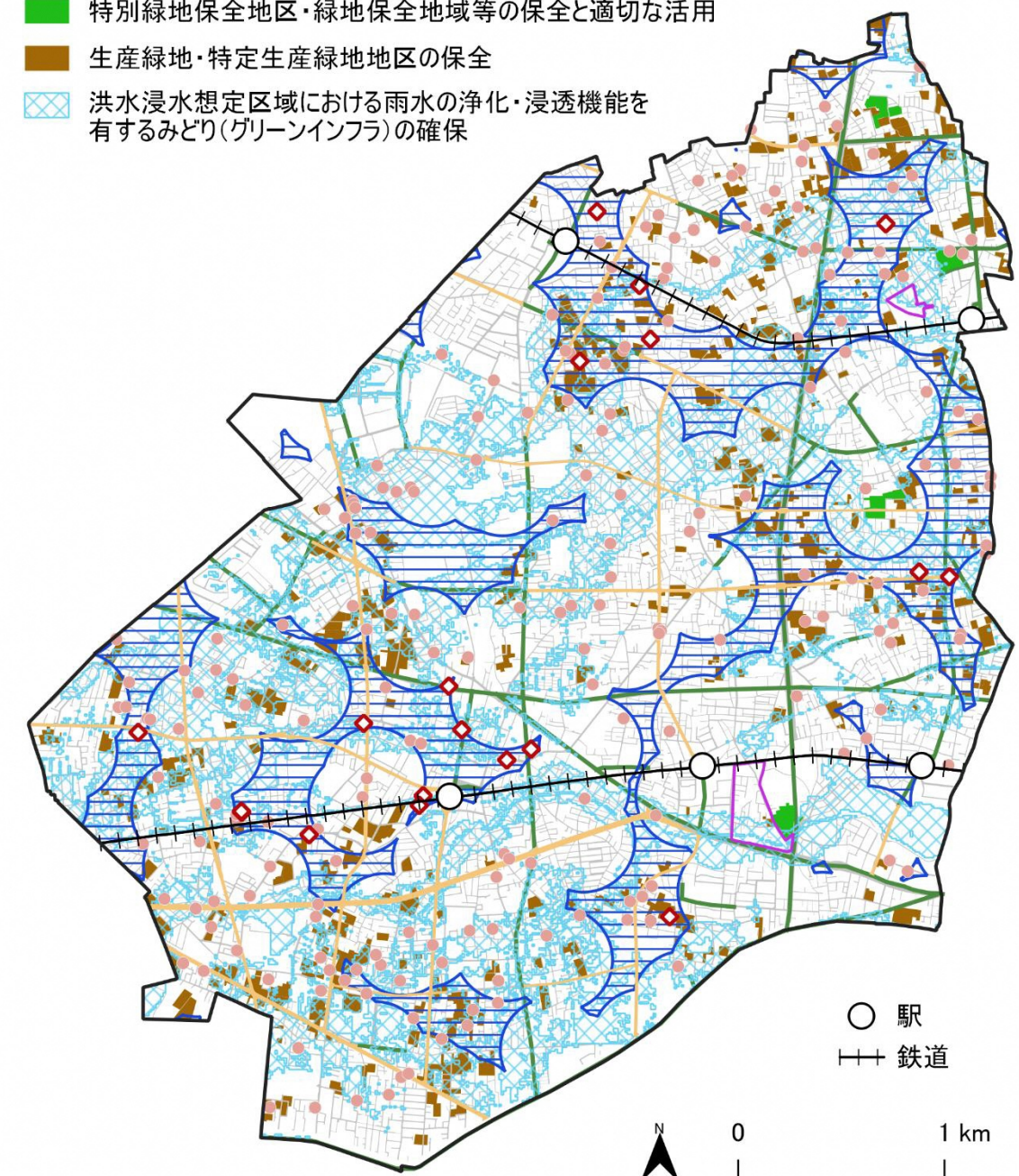


④課題マップ（地図とリンクする局所的な課題図）

ほか、みどりのまちづくりにおける課題として局所的な事項もある。主だった課題について、具体的な場所と内容を以下の地図に示す。

課題マップ

- 街路樹・植栽の適切な管理
- 自然環境と調和した都市計画道路の整備
- 500㎡未満の小規模市立公園の機能再編・活用促進
- 未供用の都立公園・市立公園の整備促進
- 公園空白地区における公園整備の誘導や公園的機能を有する空間の確保
- ◇ 公園空白地にある保育園等における遊び場の確保
- 特別緑地保全地区・緑地保全地域等の保全と適切な活用
- 生産緑地・特定生産緑地地区の保全
- 洪水浸水想定区域における雨水の浄化・浸透機能を有するみどり(グリーンインフラ)の確保



みどりの課題

適正な量と質を備えたみどりの形成に向けた、持続的なみどりのまちづくりのマネジメント

A みどりを守り、創る

- ✓ 公有地／民有地の分け、守るみどり／創るみどり／整えるみどりの分けなど、みどりの性質に応じた対応
- ✓ みどりを活かしていくための環境づくり（多様なニーズに応えるための設備の工夫、活用機会の創出など）

B みどりを支える仕組みづくり

- ✓ みどりの価値の適切な評価、発信
- ✓ 自治体、地域・団体、企業等の共助によるみどりのまちづくり推進
- ✓ みどりのまちづくりに参加しやすい・支援されやすい仕組みの構築

A-1 みどりの量の確保

- 公共地のみどりを引き続き、整備・管理
- 民有地のみどりを減らさない＆増やすための支援
- 有機的なみどりのネットワーク構築
- 公園的機能を有する空間による補完

現状

公有地のみどり

民有地のみどり

全市的なみどりの量の確保

- 公園の整備・再整備
- 街路樹・植栽の維持管理
- 生産緑地・特定生産緑地制度による保全
- 農地貸借の活用
- 農業振興計画策定
- 保存樹木・樹林などの指定
- 文化財の指定
- 開発を補うみどりの創出

今の西東京市のステージはここまで

効果的なみどりの量の確保

- 公園的機能を有する空間配置を踏まえた公園緑地の機能再編
- 有機的に多面的機能が発揮されるネットワーク構築
- 屋敷林等、優先的に保全すべき民有地のみどりの設定
- 点在する都市農地の一体的な保全

発展

A-2 みどりの質の向上

- みどりの多面的機能の発揮
- 活用しやすいみどりの創出・誘導
- 生物多様性の確保・保全
- 風土や歴史など地域の成り立ちを踏まえた特徴あるみどりの継承と活用
- 社会・地域課題の解決やまちの魅力アップにつなげるみどりの活用

現状

部分的な質の向上／循環型社会の構築

- 公園配置計画の策定による質の低下の抑制
- せん定枝・草・落ち葉の堆肥化

今の西東京市のステージはここまで

- グリーンインフラとしての多機能なみどりの整備・誘導
- 公共施設における樹木の計画等に基づいた適正管理
- 公園的機能を有する空間の活用促進
- 生物多様性の確保・保全

長期的・戦略的な展望下での取組推進

- 社会・地域課題の解決のフィールドとしてのみどりの環境構築
- 風土や歴史など地域の成り立ちを踏まえた特徴あるみどりの継承と活用による西東京モデルのみどりのまちづくり
- 観光・文化・農・福祉・環境エネルギーなど、分野を融合させながらのみどりのまちづくり推進による、みどりの多面的な機能発揮

発展

B-1 みどりのまちづくりを支える体制構築

- みどりの価値の評価分析と発信、啓発
- 行政・市民・地域・企業の連携の拡充
- 既存の担い手の支援、新たな担い手の発掘
- 市民が自分事として関心を持つためのきっかけ作り
- みどりを活用しやすい仕組みの構築
- 管理不足が今後懸念されるみどりへのアプローチ

現状

公有地のみどり

民有地のみどり

市内での人材の発掘・育成・活用

- 市民の主体的な活動実践
- 小規模公園の活用促進
- 協議会の発足（泉小わくわく公園）
- デジタル技術活用による新たな担い手の取り込み
- 指定管理者制度を通じた行政と民間・市民等の連携
- 学校教育・社会教育との連携（食育・歴史文化・研究）
- 援農ボランティアの活用
- 緑のカーテンの市民モニター

今の西東京市のステージはここまで

市民の緑化技術の育成

担い手のすそ野の拡大

- 市民の緑化技術の育成
- みどりの価値の評価分析（排出抑制など新たな視点も）
- みどりに親しみを持たせ、ファンをつくる取組
- 活用とセットにした、利用者による管理や自主的な運営をサポートする仕組みづくり
- 支援したい人、支援されたい場所のマッチング（地域全体で共助で守るみどり）

発展

B-2 みどりのまちづくりを支える財源確保

- 民間活力の活用
- 多様な資金調達の方策の可能性の検討
- デジタル技術によるコスト低減

現状

制度設計や技術によるコスト低減

- 複数公園の包括指定管理者制度の導入（民間企業の参画促進）
- 開発に際しての金銭納付の受入（提供公園設置の代替措置）
- デジタル技術活用による管理コストの抑制

今の西東京市のステージはここまで

- 包括指定管理者制度の拡大

新たな財源創出

- クラウドファンディングやネーミングライツ、グリーンボンドなど多様な資金調達の仕組みの活用検討

発展

第3回会議の論点

現状と社会潮流

① まちの概況

- ✓ 都心へのベッドタウンとして、人口と世帯数の増加が続いており、特に住宅の中でも戸建て住宅の増加が顕著。
- ✓ 概ね平坦な土地であるが、石神井川をはじめとした河川周辺での水害リスクが存在。

② 市のみどりの現況

- ✓ 緑被率は25.3%、みどり率は26.4%で、緑被は東大の田無演習林や都立公園、武蔵野大学周辺などで特に多い。前回調査(約20年前)より約4%低下しており、特に農地の減少が著しい。街路樹整備もあり、樹木・樹林は増加。
- ✓ 住民一人当たりの公園面積は1.88㎡/人(R4.4.1時点)で、市が管理する公園は約6割が300㎡未満の小さな公園。市内各地の公園でボランティアが活動中。供用開始から30年を経過した公園数は3割になり、老朽化が懸念。
- ✓ 本市は住宅などに隣接した都市農地が多く、キャベツやホウレンソウ、小松菜などが多く生産。しかし、農地は減少傾向にあり、担い手も高齢化。

③ 市民意識

- ✓ まちのイメージとして「まちなかの自然(公園、農地等)が豊かである」という回答は全体の6割弱。子どもたちも市のみどりに対する意識は強い。
- ✓ さまざまなみどりの施策がある中で、防災やまちの魅力向上につながる施策が特に期待されている。
- ✓ 公園の活用に向けた多様なニーズがある。

④ これまでのみどりの取組

- ✓ 市では公園配置計画と連動しながら公園整備や開発公園の誘導、特別緑地保全地区や生産緑地・特定生産緑地といった都市計画制度の活用によるみどりの保全等に取り組んできた。
- ✓ 民有地における樹木の保全・生垣の設置等に協力的な市民がいるほか、地域の有志が企画・選定した西東京の木50選などの取組も存在。本市では小規模公園の活用アイデアワーキングなども開かれ、引き続き地域連携が期待される。
- ✓ 民間連携として複数公園を対象とした包括指定管理を導入。公園の管理活用における民間活力が活かされている。

⑤ 社会情勢

- ✓ SDGsへの貢献など、多分野との連携による都市と自然が調和した持続的なまちづくりに向けた動きが加速化。
- ✓ 平成29年の都市公園法改正により、みどりにおけるプレイヤーが行政から民間へ移行しつつある。
- ✓ 都市農業振興基本法が成立し、農地の環境や防災への貢献力(多面的な機能)の発揮が期待されている。

みどりの課題

A みどりを守り、創る

- ✓ 公有地／民有地の分け、守るみどり／創るみどり／整えるみどりの分けなど、みどりの性質に応じた対応
- ✓ みどりを活かしていくための環境づくり(多様なニーズに応えるための設備の工夫、活用機会の創出など)

A-1 みどりの量の確保

- 公有地のみどりを引き続き、整備・管理
- 民有地のみどりを減らさない&増やすための支援
- 有機的なみどりのネットワーク構築
- 公園的機能を有する空間の活用促進

A-2 みどりの質の向上

- みどりの多面的機能の発揮
- 活用しやすいみどりの創出・誘導
- 生物多様性の確保・保全
- 風土や歴史など地域の成り立ちを踏まえた特徴あるみどりの継承と活用
- 社会・地域課題の解決やまちの魅力アップにつなげるみどりの活用

適正な量と質を備えたみどりの形成に向けた、持続的なみどりのまちづくりのマネジメント

B みどりを支える仕組みづくり

- ✓ みどりの価値の適切な評価、発信
- ✓ 自治体、地域・団体、企業等の共助によるみどりのまちづくり推進
- ✓ みどりのまちづくりに参加しやすい・支援されやすい仕組みの構築

B-1 みどりのまちづくりを支える体制構築

- みどりの価値の評価分析と発信、啓発
- 行政・市民・地域・企業の連携の拡充
- 既存の担い手の支援、新たな担い手の発掘
- 市民が自分事として関心を持つためのきっかけ作り
- みどりを活用しやすい仕組みの構築
- 管理不足が今後懸念されるみどりへのアプローチ

B-2 みどりのまちづくりを支える財源確保

- 民間活力の活用
- 多様な資金調達の方策の可能性の検討
- デジタル技術によるコスト低減

次期計画の見直しの方針の視点

みどりのまちづくりについて、基本的な姿勢や取組の方向性を示していくのが基本計画の役割

★1 ビジョンをどう見据えるか？

みどりのまちづくりで何を指す？ みどりに何を期待する？
→アンケート結果では、防災やまちの魅力向上など、景観や環境面だけでなく多面的機能の活用によるまちづくりに期待。
加えて、本市では往年、健康まちづくりを推進&「ゼロカーボンシティ」宣言を発出＝環境意識の高いまち
⇒例えば、みどりのまちづくりのコンセプトとして『ひととみどりが互いに支え合うまち』など
…西東京の特徴あるみどりを継承しながら、地域や社会課題の解決のために、みどりを活用することで生活や心身が豊かになり、みどりが活性化することで、みどりを支える人がさらに増える好循環の創出(みどりを通じた心身ともに健康的なまちづくり／人・自然双方にとって“生きる”上での基盤構築(グリーンインフラ))

★2 目標をどう位置付けていくか？

みどりの量の目標

…行政の裁量や財政面を考慮した現実的な目標設定が重要
⇒例えば、公園の量だけでなく、市民農園などのオープンスペースなどを含めた“公園的な空間”の量をKPIとする／敢えて市域全体についての量のKPIは設定せず、グリーンインフラとして重要な区域に限ってみどりの量のKPIを設ける等

みどりの質の目標

…みどりの質をどう定義するか？
ex『みどりの多面的な機能が発揮され、かつ、その環境が持続的に維持される状態』など
⇒例えば、満足度に加え、市民の活動量(活動に参加した割合、参加意向割合)をKPIとする

★3 西東京市の特徴的なみどりとは？

地形・地質や河川といった自然条件に起因する旧田無市と旧保谷市のまちの成り立ちの違い。武蔵野の原風景(屋敷林・雑木林・小金井サクラ等)、都心のベッドタウンでありながら都市農業と密接に関わってきた暮らし。住宅団地としてのまちの発展。
⇒地域ごとに異なるみどりの基盤とそれに合わせたみどりのまちづくりの方向性の検討(農風景のみどりの地域、開発団地による創出型みどりの地域など)